

天皇陛下御即位奉祝パレード



やくわえ

第四十四号

相撲は現在荒れる大阪
 場所、横綱・大関に全
 勝力士がないなか藤島
 部屋の若武者・貴花田が
 唯一人全勝中で藤島部屋
 そのものも部屋頭以下活
 躍中であります。部屋の
 親方・元貴ノ花が人一倍
 の稽古で軽量の不利を克
 服しその天性
 の才を開花さ
 せ、見る人々
 を常に引き付
 けた名大関と
 うたわれ、それでも横綱
 にはなれずその何かに耐
 え抜くような表情と兄・
 若ノ花という大力士が師
 匠として厳しくあたるこ
 とに何故か心に哀愁をもつ
 て応援せざるをえなかつ
 た、その藤島部屋の稽古
 量の多さは群を抜いてい

円熟期を迎えた？ 西の大関

会長 鈴木昭樹

と報じられているのを聞くと、
 日々の精進の大切さ、自分自身
 これで良いと納得させずこれでも
 かこれでもかといつでも多く積み
 重ねることの大切さを改めて痛感
 致します。さて、相撲部屋に例え
 ると東京都神道青年会は名門部屋
 であるといえます。その草創期か
 ら綺羅星のごとく個性あふれる優
 秀な先輩をうみ、上手に新陳代謝
 を繰り返し、現在も個性あふれる
 多くの会員が伝統を継いでおりま
 す。その特長を一言で言い表わす
 ならば、物事に当たるときの団結
 力の強さと受けの強さ、決して梯
 子をはずすことのない凛とした心
 意気にあるといえます。そして常
 に大関であることを求められます、
 常に十勝以上の成績を残し必ず横
 綱になるためには付かねばならぬ
 地位でありそれだけに注目もされ、
 万が一負け越せば即引退であろう
 横綱と異なりとにかく次の場所も
 頑張りやらなくてはならず、厳し
 い立場といえます。この二年間非
 才にもかかわらず何とか部屋頭の
 役を務めさせていただくことがで
 きました、当然のごと
 く多くの個性あふれる
 有能な役員・委員諸兄
 また多くの先輩諸兄の
 お力添えによることは
 申すまでもありません。創立四〇
 周年記念事業で皆様方發揮された
 力は必ずや今後の東京都神道青年
 会の活動を躍進させて行くと信じ
 ております。さて標題の「円熟期
 を迎へた？ 西の大関」どうお読
 みいただくか？ 私の退任の言葉
 とさせていただきます。語らぬこ
 とが「サクラ サク」。



第六十一回 神宮式年遷宮

総奉賛・総参宮を



摩文仁丘東京之塔で慰霊祭

沖縄県摩文仁の丘での慰霊祭
波照間島「聖寿奉祝の碑」改修に参加して

松本 仁

初夏を思わせる日ざしに迎えられ、鈴木会長以下都神青会員十六名と神青協小林会長ら十名は平成二年三月十三日午後那覇へ到着した。

今回の沖縄訪問は当会創立四十周年記念事業として計画されたもので、沖縄戦ならびに南方方面戦没者慰霊祭の斎行、慰霊祭にお供えする塩を作ることを、そして「波照間之碑入口」の石標を設置することが主な目的である。

また、神青協も創立四十周年記念事業として「聖寿奉祝之碑」「波照間之碑」の修復ならびに同奉告祭を計画し、両会合同の沖縄訪問となったのである。

羽田での結団式に先立ち、鈴木会長始め役員五名は早朝靖国神社に参拝し、慰霊祭の御供物を戴いての沖縄入りである。沖縄県護国神社、波上宮に参拝し、四日間に亘る計画の成功を祈念した一行は石垣島に一泊し、翌朝先発隊として一足早く来ていた山口副会長ら

に迎えられ波照間島に到着した。波照間とは「果てのウルマ(サング)」という意味であり、周囲十四・八キロ、人口七百人という有人島としては日本最南端に位置する島である。

早速全員で久成崎という景勝地にある碑の清掃及び改修作業を行った。石垣島より足を運んでくれた石屋さんの手により、まず石標を立てられた。また、「聖寿奉之碑」にも、心無い観光客のいたずらで損傷の激しかったステンレス製の日の丸にかわり、傷つきにくいとされるセラミック製の日の丸が、全員の見守るなか据付けられた。今度こそ大事にしてもらいたいものである。

次は海岸での塩汲みだ。白丁姿の会員により厳かに汲上げられた海水は、宿舎の庭で夜中までかかり煮詰められた。

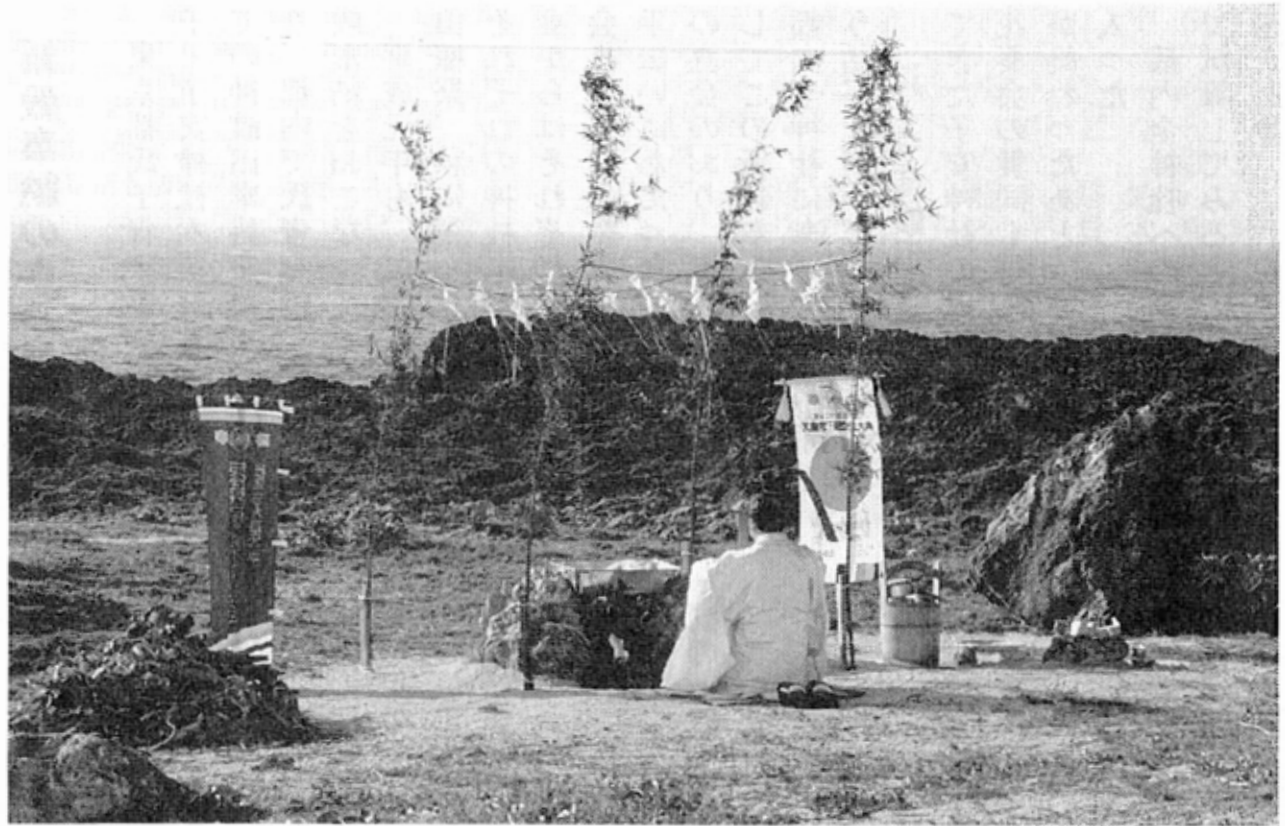
翌十五日も好天に恵まれ、碑の近くに作られたかまどにて塩作りの奉告祭を行った後、昨日の濃縮海水をさらに煮詰め、遂に三キロの塩ができた。本当に根気のいる作業であった。

午後四時、碑の修復奉告祭が区長さんを始め島の名士多数参列の

もと、神青協小林会長が齋主をつとめ齋行された。引続き島の人達との懇親を兼ね、直会（野外パーベキュー）が催された。沖縄名産の泡盛、オリオンビールを飲みながらのパーベキューはまた格別。波照間民謡が歌い踊られ、「美はしき山河」の大合唱が星空にこだました。

翌朝思い出の波照間を後にし、昼頃摩文仁の丘に到着した。「東京の塔」における慰霊祭は鈴木会長以下会員の奉仕により、今回の事業に何とかお世話下さった沖縄県青会波慶次副会長らも参列され、厳粛の内に齋行された。

沖縄に初めて訪れた会員の多かった今回の事業は貴重な体験となったことと思う。また「波照間之碑」建設当初より深く関わってこられた森田先輩が同行して下さり、色々御助言戴いたことに深く感謝したい。当初の目的を無事果たし、午後七時すぎ羽田に帰着した。



塩作りの成功を祈願し祭典を行う



波照間島々民との懇親を深める

全神社に新穀を 御大典記念事業を終えて

今井 達

東京都神道青年会では、御大典記念事業の一つとして、東京都氏子青年協議会と合同での都内全神社新穀献納を計画、神道婦人会による新穀を納める白布袋の縫製協力を得て、無事終了することが出来た。

昨年四月から十一月まで半年以上になつたが、さまざまな行事をおこなつたがその顛末を報告したい。

新穀奉納のきっかけは

東京都氏子青年協議会は、八王子・子安神社木花葵会を中心としての神饌田奉納を毎年実施しており、都内で氏青を持つ神社への新穀奉納をおこなっている。

平成元年も、恒例により六月に田植祭、秋に稲刈りをおこない、それぞれの神社に奉納した。神青会からはそれぞれの行事に、鈴木会長や担当の教化部員が出席しお手伝いにあつたが、行事のあと直会のおり、御大典記念事業としてこの新穀奉納行事を拡大し、都内全神社に奉納できないかという話が上がつた。

これまで神饌田奉納の中心となつてきた子安神社の氏子青年会・木花葵会の賛同も得たので、稲刈りが終わったあと、事務局で検討に入った。

都内全神社への献穀量を事務局で試算してみると、約六百キロの米が必要。これを農家の人と相談

してみると不可能ではないとのことなので、早速手配に移つた。

これまで子安神社の神饌田は、八王子市内の休耕田を神饌田としての許可を求め利用しているとのこと。しかし今までの面積では足りないため、八王子市の高月浄水場脇の休耕田を新たに神饌田として利用することとなつた。これまでも神饌田奉納にあつていただいた荻島氏に、この許可申請などをお願い、スムーズにこ

まず播種祭から

始めて

平成二年四月十五日、東京都氏子青年協議会の四月定例会が、昭和天皇陵参拝後に子安神社で開かれた。これに先立ち、田主の荻島邸で新穀

奉獻事業の播種祭を鈴木会長が斎主となつて斎行した。苗床を清祓ののち田主荻島氏が紐を撒き、氏青協の有泉会長以下が玉串を奉つて拝礼、豊作を願つた。

続いて、六月二十四日に高月浄水場脇の神饌田で、お田植え祭を実施した。「祭儀は厳粛に」と神青会員五人が奉仕、氏青協会長や役員は白丁姿で、また女性会員は早乙女姿で参列し、祭典のあとそれ



ぞれ稲を田圃に植えた。

神饌田であるからには、いろいろな稲の祭をやりたいとの希望から、八月には神青会夏の親睦行事に併せて虫追い行事を実施した。この行事は本当は夜おこなうとのこと。しかし時間の都合で、昼間に実施、会員の子供たちが豊作を祈って神饌田に切麻を撒いた。すくすくと育つ稲は、青々としてとてもきれいだった。

時間に気をもんだ

稲刈り祭

各神社の大嘗祭当日祭に、新穀を奉獻していただくとうと始めた神饌田奉耕、稲の発送は十一月中旬までには終わらなくてはならない。稲刈りはいつ出来るのか？ 乾燥は間に合うのか？ 発送の手間は？ さまざまな考えが駆け巡った。

いよいよ十月二十八日に稲刈り祭を実施、しかし時間の関係で乾燥作業が間に合わないため、田圃の一部を先に刈り取った中での斎行となった。

まず、河原大祓を実施した。村瀬神青会議長が大祓詞を宣読、参列者一同は清浄な中で大嘗祭が斎

行され、また神社に奉獻する神饌田の稲を祓い清めるよう祈った。祭典では、鈴木会長が祝詞を奏上したあと、祭員、神社庁代表、参列者らがそれぞれ鎌を持ち、たわわに実った稲を刈り取った。

祭典後は、子安神社木花葵会の全面的協力による心温まる直会をおこない、また参列した氏子青年会員らは、刈り取った稲を稲穂のまま整理し、氏神さまへ奉獻するための抜穂をつくるなどしていた。

ギリギリまで続く

発送業務

十一月七日、新穀が神社庁に運び込まれた。三十キロ入りの紙袋二十個、六百キロ分。運んできたライトバンにぎっしりと積まれている。

郵パックのラベルは事前に氏青協の事務局が準備し、神社庁に集まった神青会員により、手際よい袋詰めが始まった。

まず、神道婦人会縫製の白布袋に新穀を入れ、麻苧で口を結ぶ。これを奉務神社数だけ箱に入れ、ラベルを張り発送となる。約一千五百個の発送作業は七日だけでは終わらず、九日にもう一度集合し

てやっと終了、発送という段になって、また問題が持ち上がった。

郵便局に郵パックの引き取りを頼むと、即位礼の前後は、赤坂御所周辺すなわち神社庁周辺の引き取りはやらないとのこと。

なんとかしろ、との押し問答の末、やつと十六日に発送できるとのこと。やつと発送して、やれやれと思う間もなく、「神社数が違います」との電話や手紙がやってくる。ひたすら「御免なさい」の気持ちで追加発送をした。

大嘗祭が無事終了し、しばらくした頃、いくつかの神社から「神前に奉奠しました」との手紙がつき始め、やつと安心をした。



御報告

御大典の妨害を凶った過激派により都内神社六社が罹災にあうという重大事に接し、神青会では罹災神社の御復興義援金の御協力の御願を致しましたところ、会員各位の御理解をいただき五十九万三千円の御浄財をいただきました。それに神青会特別会計よりを併せ計九十万円を罹災神社六社に御奉納させていただきました。御報告を申し上げますと共に会員各位の御協力に対し厚く御礼申し上げます。

活動状況

△雅楽講習会▽

八月二十・二十一日の二日間神社庁において楽器を手にするのも初めてという者も含め二十六名が参加して開催された。小野雅楽会の講師の指導によりそれぞれ楽器別に別れて講習し、最後に三管合奏してその成果を披露した。閉講式に移り鈴木会長の挨拶、小針教化・

教養担当理事より修了証の授与、小野貴嗣講師より講評をいただき日程を修了した。

△大嘗宮拝観▽

十二月五日皇居に設けられた大嘗宮を拝観。テレビ等の報道である程度理解をしていたが、やはり実物を拝観しその厳肅なる趣に感動を深めた。

△新年会開催▽



一月十六日、神田神社・明神会館に於いて神青会新年会が会員、神社庁役員、関係諸団体の方々八

十余名の参加により開催された。

全員で神田神社の大前で正式参拝を行った後、会場に移り大石総務部長の司会により能圓坊副会長の開会の辞、神宮遥拝、国歌斉唱、鈴木会長が挨拶に立ち、続いて伊藤副会長、先輩を代表して今井香先輩、また関係諸団体を代表して神青協小林会長がそれぞれ挨拶をされた。

神田神社宮司大鳥居先輩の御発声により乾杯、懇親会に移り新春を飾る行事にふさわしく和やかな雰囲気につつまれた。最後に全員で肩を組ながら恒例の「美しき山河」を合唱、山口副会長の閉会の辞を以って散会した。

△神青協中央研修会▽

三月五・六日の二日間、平成二年度神青協中央研修会が四国プロツクの主管により高松市で「塩と日本文化」をテーマに開催され当会より十九名が参加した。研修会終了後、都神青会と関東地区との合同によりバスで栗林公園などを見学、高知県において高知県神青との懇親会を催した。翌七日天満宮正式参拝、高知市観光をし羽田において散会した。

△教養講座▽

二月六日千葉市の千葉神社を二十名の参加により神社新報においても掲載された重層式神殿を見学、当日二時に集合し正式参拝の後山本宮司の案内で社殿を拝観、宮司より重層式社殿の建築に至るお考え、また神社経営について貴重な御話しを伺った。



平成三年三月三十一日
東京都神道青年会
東京都港区元赤坂二―二―三
東京都神社庁内
電話 三四〇四―六五二五代